

2015年(平成27年)10月2日(金曜日)



発行所 電波新聞社  
 東京本社  
 東京都品川区東五反田1-11-15 千141-8715  
 ☎03(3445)6111(大代表)  
 大阪本社  
 大阪市中央区北浜3-2-25 (京阪淀屋橋ビル6階) 千541-0041  
 ☎06(6203)3361(大代表)  
 西部本社  
 福岡市博多区博多駅前2-13-23(扇寿ビル) 千812-0011  
 ☎092(431)7411(大代表)  
 ©電波新聞社 2006

# 千住金属 業 棒はんだ10キロ包装ラインアップ

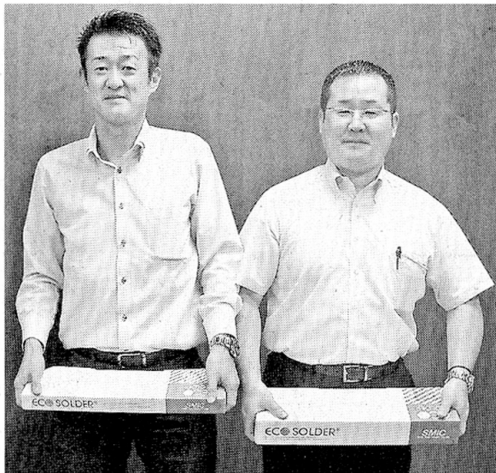
千住金属工業はこのほど、棒はんだの包装を10キロにした生産・包装技術を確立、軽量化仕様仕様品として10月から本格的に国内販売を開始した。将来はアジア、中国市場にも展開する。

## 労働安全面に配慮

はんだ業界では棒はんだの包装は長年にわたり20キロ包装が標準とされてきた。しかし近年、労働安全面から「作業で扱う重量は10キロ以下」と

する企業が増加。また、女性や高齢者が活躍できる職場とする多様化に対応。同社の平山充芳営業一

## 女性にも 優しく 軽量化仕様を標準に



棒はんだ10キロを持つ平山部長(左)と20キロを持つ恩田雅人課長

量管理に重点を置き、50種類以上ある棒はんだの生産性や作業手順の改善、包装材の変更など10キロ包装を確立するための見直しを徹底して行った。軽量化仕様仕様品をラインアップしたのは業界で初めてだろう。しかも価格を据え置いたという。

長さ455×幅139×厚さ65ミリという20キロの包装箱に対して、10キロ包装箱は長さ455ミリと同じだが、幅116×厚さ38ミリと二回り以上小さくなっている。「棒はんだ10キロ包装は、軽量だから女性にも簡単に搬送でき、在庫管理の負担も緩和できる。また、価格を20キロ1箱と10キロ2箱は同一価格だ。小口のユーザーも購入しやすくなる。棒はんだ10キロ包装を当社の標準にしていく」と平山部長。

また、同社はフラックスも14キロ(一斗缶)のほか7キロ缶をラインアップ、棒はんだ10キロと合わせソリューション販売も行う。

部部長は「10キロの包装箱に対して、10キロ包装箱は長さ455ミリと同じだが、幅116×厚さ38ミリと二回り以上小さくなっている。」